



知的スキルとメディアリテラシー育成を兼ねた観光の日本語の授業作り —ChatGPT を使用した活動案—

Creating a Japanese for Tourism Class for Fostering Thinking Skills and Media Literacy

-Suggesting class activity using ChatGPT-

Received 9 June, 2023

Revised 4 November, 2023

Accepted 9 November, 2023

宮本 冬美花

Fumika MIYAMOTO¹

要旨

本稿はラームカムヘン大学において筆者が行った 2022 年後期に行った観光の日本語の授業に関する、内省のための定性的研究である。学生への授業後アンケート結果やガイドの日本語についての論文、Outcome-Based Education (OBE) の観点から授業を振り返った。その結果、教材の提示の仕方に改善が必要であることに加え、タイの歴史との比較のための日本の歴史についても指導し、学生の知的スキル・対人スキルとメディアリテラシーなどの能力について授業で育成できる活動を検討する必要があることがわかった。本稿では更に、コースに欠けていた能力を育成のために、ChatGPT を使用した観光日本語の授業での学習活動例を提案する。

キーワード：観光の日本語、知的スキル、メディアリテラシー、ChatGPT

Abstract

This is reflective qualitative research on the Japanese for Tourism course provided at Ramkhamhaeng University in the 2nd semester of 2022 by the author. The author reflects on post-course student surveys, other research on Japanese for Guides, and from the perspective of Outcome-Based Education (OBE). As a result, found out that improvement in the instructional material presentation was required, and that there is a need to introduce Japanese history to compare Thai history, and consider class activities to foster intellectual skills, interpersonal skills, and media

¹ Lecturer at Department of Thai Language and other Eastern Languages, Faculty of Humanities,
RamkhamhaengUniversity e-mail: fumika.m@rumail.ru.ac.th

literacy. Furthermore, this paper explores the class activity to foster these skills by utilizing ChatGPT in the Japanese language classroom.

Keywords: Japanese for Tourism, Thinking skill, Media Literacy, ChatGPT

1. はじめに

観光産業はタイ経済の柱であり、2019 年は GDP の 12% を観光産業が占めていた(外務省, 2023)。外国語を勉強した学生がタイ社会に出て働く可能性が高い産業である。観光学科で勉強している学生であればその確率は更に高いだろう。しかし、筆者は人文学部の中にある日本語専攻の講師であり、現職に着く前に観光の日本語の指導経験はなく、タイでガイドをした経験もない。そのため、初めて行った観光の日本語の授業は学習者が理解できるものだったのか、観光の日本語の授業として指導した内容は適切であるか、疑問が残った。そこで、学生への授業後アンケートを通して学習者が理解できたのかを調べ、先行研究を通して観光の日本語の授業として欠けているものを調査したい。

加えて、ラームカムヘン大学(以下、本学)では、Outcome-Based Education (OBE) を軸に専攻のコース全体や授業を形成することが求められている。教員には、授業終了後に OBE をベースにした振り返りが求められているが、振り返りの中で「社会に出てから役立つ学び」とは何か、それをどう観光の日本語に取り入れるべきか考えるきっかけとなった。学生も必ずしも観光業に関わりたいたいと考えているわけではなく、選択必修科目を学位のために仕方なくとっているという学生も多い。では、この授業では観光の言葉を学ぶだけではなく、この授業に取り入れるべき「社会に出てから役に立つ学び」とは何なのか。OBE を元にした振り返りをとおして、大きく、知的スキルやメディア・情報リテラシーを問う活動がないことに気づいた。

昨今話題になっているメディアの一つに人工知能 (AI) がある。その中でも、Open-AI 社によって提供されている ChatGPT (Chat Generative Pre-trained Transformer) はテクノロジーに詳しくない人でもメッセージが打てれば気軽に使える AI となっている。現在、学生の学業における ChatGPT 使用については多く議論されているが、筆者はこれらの技術を学生が使うことを完全には止められないと考えている。ならば、推奨できる使い方とその注意点を学生に指導するべきではないだろうか。そして、もしこれを日本語の授業に取り入れるとしたら、どのような課題があるのだろうか。

2. 研究方法

本稿では、まず、筆者が行った観光の日本語の授業と使用教材について説明する。次に学生への授業後アンケートと観光の日本語の授業についての先行研究をとおして



学習者が理解できるのものであったのか、観光の日本語の授業として欠けているものは何か明らかにする。

その後、Outcome-Based Education を元にした振り返りを行うことで、現在のコース内容で学生に求められている能力とそうでない能力があることを明らかにした上で、学生の知的スキルとメディアリテラシーを問うための活動として ChatGPT を使った授業の可能性と注意点を探り、観光の日本語のコースで行える活動の一つとして提案したい。その前段階として、ChatGPT を授業に取り入れようとした時にどのような質問をすると、どのような回答が返ってくるのか、学生に授業内で使わせようとする、どのような問題が出てくる可能性があるのかを知るために、ChatGPT の回答を分析する。

3. 筆者が行った観光の日本語の授業について

今回研究対象とする授業は、JPN4305 Japanese for Tourism というタイトルで行われている授業である。これは学士の4年生向けに設置された選択必修科目の一つである。直訳すると観光の日本語の授業ではあるが、ホテルの日本語の授業はまた別の選択必修科目として開講されている。日本語専攻のカリキュラムの授業概要においても「観光のための日本語の語彙や表現、文法を学ぶ。また、タイの様々な観光地について日本語でガイドするための日本語を学ぶ。」と表記しているため、ガイドの日本語と言った方が一般的だろう。

本授業は一週間に1回行われ、1回110分の授業である。各学期カレンダーでは15週確保されているが、実際はラームカムヘン大学の制度上学期中に実施される追試やタイの祝日、卒業式のため2022年2学期に授業を行えたのは12回であった。

授業には毎回約12~23人の学生が出席した。毎回の出席人数の幅が広いのは本学の特色である。総合的な成績に対する期末試験の比率が高く、出席が成績に必須とされていない。加えて、本学はOpen Universityに分類され、入学試験がなく、さまざまな学生が在籍している。

対面授業が再開された現在、学生として毎回授業に出席できる学生もいるが、仕事やバンコクに住んでいないという理由で授業に出られない学生も多くいる。このような学生に対応するため、全ての資料はGoogle classroomにて使用教材とパワーポイントを共有している。年齢層も一番若くて高校生ながら大学に通う学位取得前プログラムの学生や社会人として働く傍ら大学に通っている学生、それから定年後に生涯学習として参加している学生もいる。

大学に様々な背景を持った学生がいるため、学生の日本語能力の差も大きい。大学入学時に日本語をひらがなから勉強し始めた学生もいれば、日本語能力試験のN2を取得済みの学生もいる。2022年2学期にはガイドとして働いていた経験がある学生もいた。

各回の学習内容は表1のとおりである。

表 1.2022 年 2 学期 12 回の学習内容

回	学習内容
第 1 回	コースの説明、敬語の復習
第 2 回	旅行スケジュール作成
第 3 回	観光における注意事項
第 4 回	観光における注意事項
第 5 回	買い物
第 6 回	タイの食べ物
第 7 回	トラブル処理
第 8 回	タイの観光案内 タイの概要アナウンス
第 9 回	タイの観光案内 タイの文化を説明
第 10 回	タイの観光案内 歴史のある観光名所の説明(ワット・ポー) アナウンスの発音練習
第 11 回	試験についての説明、観光客に関わる法律と最近のニュース 日本人が驚くこと
第 12 回	タイの有名な話

4. 2022 年度に使用した教材について

大学の履修要覧に沿ってシラバスと授業内容は筆者が決めた。教材は自作教材を使用した。筆者自らの経験をもとに場面を重視したが、自身が観光に関する知識が不十分であるため、トピックの選定には Sichakrawan, Abe, Jungsujaritam, Wachiradilog, Nakashima, Takada, & Yoshida (1997) の「ガイドの日本語 1」と Sichakrawan, Abe, Jungsujaritam, Wachiradilog, Nakashima, Takada, & Yoshida (1995)「ガイドの日本語 2」を参考にした。また、導入すべき語彙や表現、敬語表現も参考にさせていただいた。このほか、生教材として「るるぶ・タイ バンコク・アユタヤ' 21」(JTB パブリッシング, 2020)やタイ国政府観光庁のウェブサイトを活用して授業を行った。第 1 週に行った敬語の復習に関しては金子(2014)の「初級が終わったら始めよう新にほんご敬語トレーニング」を一部参考に観光において広く使えるような基本的な敬語表現の練習問題を作成した。

各トピックにおいて、授業の構成は次のとおりだ。まず、質問に対して学生に自分で考えさせ、学生が自ら考え出せたことをクラスで共有させる。次に、出てこなかった案や留意すべき点をキーワードやそれに関する記事などの形で教師が提示した。この時に同時に質問に答えるための文法も提示する。そして、最後にもう一度キーワードや記事を元に学生に質問への答えを追加させた。

「観光における注意事項」の回をお寺について絞った例をあげると、次のようになる。まず、「観光地で観光客が気をつけなければいけないことはなんですか。お客様にどのように声をかけますか。」と学生に問う。すると、「靴を脱いでください



。」だったり、「大きな声で話さないでください」などの発言が出てくる。これらは初級の「～てください」の文法を勉強する際によく出る例であろう。一通り意見が出た後、ガイドブックやウェブサイトに載っているタイ旅行の注意事項の記事を見せ、「～しないようお願いします」等の注意事項を話すときの文法を導入した。すると「肩や膝が隠れる服装でお願いします。」であったり、「女性はお坊さんに触らないようお願いします」といった文を作るようになった。

なお、作成したプリントについては語彙にふりがなやタイ語はつけなかった。これはレベルが異なる学習者がいるためで、分からない言葉はスマートフォンやタブレットを使って自ら調べられる習慣をつけてほしいからである。それでも分からない言葉は教師に聞くように指示したが、簡単な日本語やインターネットで画像を表示するなどで対応した。

5. 授業に対する学生へのアンケート結果

本項では、コース終了後のアンケートを元に、学生の目線から授業の改善点を探る。今回のアンケートは匿名で行ったが、任意であったため、9人からのみ回答があった。アンケートの結果は以下のとおりである。なお、回答は日英泰のどの言語でも回答可としたため、日本語の回答以外は翻訳をのせている。

「授業の難しさはどうか。」という質問について、「難しいけど大丈夫」との答えが88.9%(8名)、「難しすぎる」と答えた学生が11.1%(1名)いた。観光の日本語という職業目的の日本語ともなる科目であるので、難しいと感じる学生が多いことは予想ができた。しかし、「難しいけど大丈夫」と「難しすぎる」という選択肢を提供したことで、多くの場合、難しくても理解がある程度可能であったことが確認できた。

「授業で使ったプリントについて」のコメントでは、「よかった」との回答の他、以下のような意見があった。

- ・「ふりがなをお願いします。」
- ・「学校に頻繁に行けない人にとって、自分で読んで考え、理解するのは大変だ。(筆者訳)」
- ・「内容が多く、全ての漢字が読めない学生にとって授業前に準備をする必要があるため、学期の最初にまとめて資料が欲しい(筆者訳)」

これらの意見は至極理解できる。分からない言葉は自ら調べられる習慣をつけてほしいというのは負担が大きすぎたということであろう。学期開始時に全ての資料を提供するのは現在の授業構成上、質問のヒントとなるキーワードを先に出してしまうことになるので学生自らが考える機会をうばいかねない。しかし、オンラインのみで学習しなければならない状況にある学生のために、もう少し学習のための明確な指示とフォローアップができる体制を整える必要があるだろう。これには、指示文を教材内に増やすことと、オンライン学習者用に自分が考えた回答を宿題の形で提出し、教師がコメントを返すことで対応できると考える。

6. 観光の日本語及びガイドの日本語についての研究

次に、観光の日本語のコースとして欠けているものがないか、調べるために本項では観光の日本語やガイドの日本語についての先行文献を分析する。観光の日本語についてはすでに様々な研究がなされている。タイ国内での観光日本語のシラバスやカリ

キュラムデザインの面では、長町・中村・松原・山川(2006)や森(2008)がラチャパット大学とシーパトゥム大学それぞれの大学での観光の日本語におけるシラバスや教材の作成報告をしている。しかし、各大学研究対象となる「観光の日本語」位置付けや教える内容の範囲が異なる。この他 Iwata(2009)やゴンザレス(2013)もグアム大学とハバナ大学でのシラバス研究について報告があるが、同じことが言える。

ガイドが必要な日本語については千葉・高知(2010)がベテランガイドへのインタビューに基づいて報告している。4技能の面から行くと、聞く・話す技能が最重要で、読む力については、予定表とガイドブックを読めることができれば良いと言う。また、「エメラルド寺院」という文字を見たときに、「ワットプラケオ」と同じであることがわかるよう指導するべきだと述べている。書く能力についてはあまりいらないとインタビューを行った人たちは言っていたようだ(千葉・高知, 2010)。ガイドになってからは、聞く・話す技能が最重要であることは理解できる。しかし、暗記してしまわない限り、ガイドとして働くためには、少なくとも読む力も同時に伸ばさなければ、ガイドをするための言葉の学習と日本語で説明するための知識がつかないと筆者は考える。

その他技能について、きれいに発音できることは重要だと述べている(千葉・高知, 2010)。また、文法知識については難しい文法が使えることよりも正確に文法が使える方が重要だとしている。専門用語についても、重要ではあるが全て学習する必要はなく、難しいことばを使わなくても伝えられる能力や未知の言葉に自分で問題解決できるような能力が重要と述べられている。それでも歴史、建築や仏教用語については多少学習する必要があるだろうとのことだ。さらに、敬語については学習初期段階の学習者に敬語や謙譲語など敬語を重点的に教育する必要はなく、日本語の様々な方言を聞き取る能力やトラブルの対処ができる言語外のコミュニケーション能力や知識が必要だとしている。知識とは、例えばタイについて知っていることや日本の時代に置き換えて説明することができることだという。また、日本とタイの違いを説明ができるとなお良いと報告している(千葉・高知, 2010)。これらから言えることは、筆者が行った授業について、基本の敬語の復習と観光の語彙を導入したことやトラブル処理の仕方について、扱ったことは間違いではなかったことが確認できた。しかし、方言や日本の時代に置き換える練習は 2022 年度 2 学期の授業で全く行わなかったもので、方言の説明は高度なニュアンスを説明できなければならないため、高い日本語能力が問われるが、少なくとも暗記で賄える可能性が高いタイの歴史を日本の時代に置き換えて説明する練習は授業で行いたい。

7. 学修成果重視教育の視点から見た授業の振り返り

次に、学習成果重視教育の観点からコースの振り返りを行う。学修成果重視教育(Outcome-based education /OBE)とは Spady(1994)によって提唱された、全ての学生が学習期間の終了後に成功するために不可欠なスキルを中心に、教育システム内のすべてについて明確に焦点を当てて組織することである。高等教育でのカリキュラム開発において無視できない存在であり、本学でも採用されている。



これに合わせて、本学ではコース終了後に教員に対して行った授業の成果の可視化が求められている。本学では道徳と倫理、知識、知的スキル、対人スキル、数値解析スキルや通信と情報技術の5つの点について授業でどのような扱いができたか問われる。更に細かく、各大項目には以下表2のように小項目が立てられている。

表2. ラームカムヘン大学における学習成果重視教育の評価項目

大項目	小項目
1.道徳と倫理	1. 正直である 2. パブリックマインドを持つ 3. 組織や社会のルールや規制を尊重する 4. タイ文化を促進するのに適切な価値観がある
2.知識	1. 基本的な原理と理論を理解する。そして、応用できる 2. タイ社会と世界社会についての知識が付き、理解することができる 3. 状況/担当業務に合わせて知識を適用できる 4. 知識と推論を使って問題を解決できる
3.知的スキル	1. 推論の原則に基づいて考え、分析し、統合できる 2. 概念的な思考力を身につけている 3. 知識への好奇心を持ち、継続的な自己成長のために変化を続けられる 4. 生涯教育に重点を置いている
4.対人スキルと責任	1. 他の人の意見に耳を傾け、違いを受け入れられる 2. 感情的に成熟していて、適応する能力があり、感情のコントロールができて、忍耐力がある 3. ポジティブ思考で自分を磨くことができる 4. 文化の違いがある社会で幸せに暮らすことができる
5.数値解析スキル 通信と情報技術	1. 計算能力がある 2. 効果的な言語スキルが身につく 3. 状況に応じたコミュニケーションの言葉を使うことができる 4. メディアリテラシーと情報リテラシーがある

(筆者記)

JPN4305 について、タイ国内での観光の日本語であるため、大項目の1. 道徳と倫理と2. 知識に関してはたくさん扱い、育成のための活動を含めることができた。タイ社会と文化、そしてその歴史について多く扱い、日本との違いをたびたび紹介し、共に話し合う機会があった。更に、今まで勉強した文法を自分の力で使い、まずは自分の考えを述べさせることで、「基本的な原理と理論を理解する。そして、応用できる」力の育成と「トラブル対処」の問題解決能力の育成ができたと考える。

しかし、3. 知的スキル、4. 対人スキルと 5. 数値解析スキル及び通信と情報技術についてはどうだろうか。知的スキルについては、ガイドとして発すべき言葉をすぐには提示せず、まずはすでに持っている語彙文法を使って自分なら何と云うか考えさせる活動を行った。しかし、「推論の原則に基づいて考え、分析し、統合する」活動だったかという、そこまでは達していない。

対人スキルについては、自分なら何と云うか考えさせるときに数名のグループに分かれて一緒に考えても良いという共同学習の機会は設けた。しかし、「他の人の意見に耳を傾け、違いを受け入れる」力を育てる活動や「感情的に成熟していて、適応する能力があり、感情のコントロールができて、忍耐力がある」人物を育成する活動であったわけではない。

数値解析スキル及び通信と情報技術の項目については、言語の授業なので「効果的な言語スキル」の育成に関してはもちろん当てはまってはいる。だが、授業の教材は筆者がインターネットから参考にできるリンクや生教材を選定し学生に提供しているため、「メディアリテラシーと情報リテラシー」の育成をしているとは言えないことに気づいた。

以上のことから、知的スキル・対人スキルと数値解析スキル及び通信と情報技術の側面から学生の学習を促進する活動を考えたい。そうなった時、現在話題になっており、まだ留意すべきことは多いながら、今後の社会で無視することはできないであろう ChatGPT を使用する授業の可能性を探りたいと考えた。

8. ChatGPT と教育での使用について

ChatGPT(Chat Generative Pre-trained Transformer)とは OpenAI 社が 2022 年 11 月 30 日に公開した人工知能チャットボットで、文章を生成する生成 AI である。公開から 2 ヶ月で月間ユーザーが 1 億人突破しているという。

Biswas (2023) は教育場面での活用方法として、チューターアシスタント、研究アシスタント、論文の見直し、個別特化学習などを挙げている。日本の文部科学省(2023)もブレインストーミング、論点の洗い出し、情報収集、文章校正、翻訳やプログラミングの補助等の学生による主体的な学びの補助・支援などを生成 AI の有効な活用場面として想定している。

それと同時に、大学における生成 AI の教学面での取扱いについては、日本の文部科学省も注意喚起をしている。文部科学省 (2023) はレポート等の作成に生成 AI のみが使われることに対する懸念があることから各所に対応を検討するよう促している。他にも、「生成 AI は、今後さらに発展し社会で当たり前に使われるようになることが想定されるという視座に立ち、生成 AI の原理への理解、生成 AI へのプロンプト(質問・作業指示)に関する工夫やそれによる出力の検証、生成 AI の技術的限界の体験等により、生成 AI を使いこなすという観点を教育活動に取り入れることも考えられる。」とも述べられている(文部科学省, 2023)。



しかし、これと同時に留意点も提示されている。成績を評価するにあたって生成 AI の出力をそのまま用いると学生の学びに繋がらないということ、また、生成 AI が出力したものに著作物の内容がそのまま含まれており、これに気付かずにレポート等に用いると、意図せずに剽窃になってしまう可能性があることが懸念される(文部科学省, 2023、Cotton, Cotton,& Shipway, 2023)。生成 AI を使用した場合は使用箇所を明記させるなどする必要はあるだろう。

また、AI の技術的限界も示唆されている。大規模言語モデルを活用した生成 AI の文章作成では、基本的に、ある語句の次に用いられる可能性が確率的に最も高い語句を出力しており、AI により生成された内容に虚偽が含まれていたり、バイアスがかかっていたりする可能性があることを周知しておく必要がある(文部科学省, 2023、Najafali, Camacho, Reiche, Galbraith, Morrison,& Dorafshar, 2023)。つまり、出力された内容はインターネット検索等と同様、確認・裏付けを行うことが必要である。この点を特に筆者は学生と授業にて共に ChatGPT を使いながら共学する方法を下項で提案したい。

この他、生成 AI は入力された情報を収集して学習していること意識しておき、機密情報や個人情報と考えもせず正しい設定等をしないまま入力して漏洩してしまわないようにする必要があることも教育しておく必要があるだろう(文部科学省, 2023)。このように、留意すべきことは多いが、今後社会に出てから全く使わない訳にはいかないだろう。高等教育の現場だからこそ、倫理や技術の正しい使い方について教育すべきではないだろうか。

AI の日本語教育での使用については、教師側がテキストマイニングなどで AI を使用した研究はなされているが、まだ学生側と共に生成 AI を使用している研究例は少ない。また、Yang(2023)が台湾の日本語教育現場での AI 技術を応用した日本語教育の研究と実践について報告した際に ChatGPT についても触れている。しかし、タイの教育現場からの報告はまだない。

本学においては正式な生成 AI の利用についての見解は出されていないが、今後は使用の可否とその程度、範囲、倫理面の教育については議論されていくだろう。

9. 知的スキルの育成方法について

それでは、知的スキルを育成するにはどのようなクラス活動が必要なのだろうか。筆者は以前、高次思考力の育成のための内容言語統合型の授業についての研究を行ったが、今一度以下にまとめる。

内容言語統合型の授業、英語で Content and Language Integrated Learning (以下 CLIL)は、目標言語を通して学ぶことにより、内容と言語の両方を身につけていこうという教育法である。CLIL の特徴として、奥野・小林・佐藤・元田・渡部(2018)は 4C を提唱してい

る。この 4C とは、Content(内容)、Communication(言語知識・言語使用)、Cognition (思考)、Community/Culture(協学・異文化理解)の 4 つの概念である。

奥野 (2018)では、思考について、学習者は表面的な理解、つまり低次思考力 LOTS(Lower-Order ThinkingSkills)から、深い理解、つまり高次思考力 HOTS(Higher-Order Thinking Skills)へと思考力を伸ばしていくと考えられている。また、低次思考力・高次思考力とクラス活動の関係について、Bently (2010)を参考に奥野ほか(2018)は高次思考力とクラス活動について以下のようにまとめている。

表 3. 高次思考力(HOTS)とクラス活動

高次思考力	クラス活動
予測する	予測する, 考える, 当てる
仮定する	提案する, 決断する, 想像する, 仮定する
論理的思考	選択する, 結論づける, 決断する, 説明する, 正当化する, 推奨する, 解決する
想像的思考・統合	想像する, 作る, 変える, 構成する, 作成する, 描写する, デザインする, 発明する, 作り上げる, 計画する, 生み出す
評価する	評価する, コメントする, 意見を述べる, 判定する, 評価をつける

(奥野(編著)(2018: 74)より引用)

以上のことから、学生に論理的思考や統合、を促し、評価することを活動に含めた ChatGPT を使った授業案を提案したい。

10. ChatGPT への指示とその回答の問題分析と授業活動案

ガイドや観光の現場で ChatGPT に力を借りたいと思う場面は文章を書かなければならない場面であろう。学生に使わせるのに先立って、筆者は実際に ChatGPT3.5 を使ってもし自分がツアーガイドであれば、聞くであろう、歴史のある観光地の案内文の作成を指示し、AI に回答を生成させた。学生と考えるべき ChatGPT の回答の懸念点を分析するためだ。有名な観光地の案内文作成を課題として選んだ理由は、歴史のある観光地の情報はすでに揺るぎないものとして同一の情報を複数の Web サイト等から AI も得られるはずで、間違った情報を生成する可能性が少ないと考えたからだ。

まず、筆者は次のように指示を ChatGPT に出した。「私はツアーガイドをしています。バンコクのワット・ポーを案内するので、ワット・ポーを説明してください。」すると、以下の回答が返ってきた。



回答 1

(以下文 ChatGPT の回答ママ、スペースの関係上、行間をなくし、段落を作成している。)

もちろん、バンコクのワット・ポー(Wat Pho)を説明します。

ワット・ポーは、タイの首都バンコクに位置する最も著名な仏教寺院の一つであり、正式名称は「ワット・ポー・チェテュワンアーラーラーマワーリワンターラーチャウィハーン(Wat Phra Chetuphon Wimon Mangkhalaram Ratchaworamahawihan)」ですが、通常はワット・ポーと呼ばれています。

ワット・ポーは、18 世紀後半に建てられ、タイ王国最古の大学でもあります。この寺院は美しい仏教のアートと建築物で有名であり、観光客にとって非常に魅力的な場所です。

ワット・ポーの最も有名な特徴は、「レクライニング・ブッダ」として知られる巨大な寝そべる仏像です。このレクライニング・ブッダは長さ 46 メートル、高さ 15 メートルにも及び、金箔で覆われています。印象的な仏像の足の裏には、象徴的なシンボルや仏の特徴を示すマークが彫刻されており、訪れる人々に感動を与えます。

また、ワット・ポーには多くの仏塔や仏像、彫刻、絵画などがあり、タイの仏教美術の素晴らしい見本となっています。境内には、美しい庭園や石仏などもあり、ゆったりとした雰囲気の中で静かに散策することができます。

ワット・ポーは、タイの伝統的なマッサージの中心地でもあり、伝統的なタイマッサージを学ぶための学校も併設されています。訪れる観光客は、ワット・ポーでマッサージを受けることもできます。

バンコクを訪れる際には、ワット・ポーは必見の観光スポットとなっており、タイの仏教文化と美術に興味のある方にとって非常に価値のある場所です。

(ここまで ChatGPT)

この回答について、ワット・ポーの基本情報については大きく誤った情報は見受けられないが、日本語の案内文としてそのまま現場で使うことは学生にすすめできない。

まず、本来であれば、ガイドとしてアナウンスをするときはその場にいるはずだが、ChatGPT が生成した回答は案内の受け手がワット・ポーにいない前提で書かれている様子が節々に見える。「…観光客にとって非常に魅力的な場所です。」や「…訪れる人々に感動を与えます。」と言う文、それから、「バンコクを訪れる際には、ワット・ポーは必見の観光スポットとなっており、タイの仏教文化と美術に興味のある方にとって非常に価値のある場所です。」と言っているのが良い例だ。しかし、これは筆者が「ワット・ポーを説明してください」と指示したからかもしれない。

また、三段落目に提示されている「…タイ最古の大学です。」というのは、初めて来た人にとって、寺院に来ているのに、建物「大学」という説明は最初間違いだと思うだろう。これに関しては、なぜ「最古の大学」と呼ばれるのか、ガイドであれば「寺院の周りにさまざまな分野の学術書が刻み込まれているから」などの詳しい説明が必要だ。

他にも、表記について、正式名称のカタカナは「ワット・ポー・チェテュワンアーラーラーマワーリワンターラーチャウィハーン」ではなく、タイ政府観光庁が提示している「ワット・プラ・チェートウボン・ウィモンマンカラーム・ラーチャウォラマハーウィハーン」というのがタイ語の発音に近いだろう。また、「レクライニング・

ブッダ」とあるが、ガイドブックや Web サイトでは、「リクライニング・ブッダ」か「涅槃仏」として紹介されていることが多い。このままではアナウンスとしての発音に少々不安が残る。

さらに、ワット・ポーの連呼は気になるところだ。これは機械が文法パターンから文章を生成しているので、はっきりとした主語を明示する傾向があり、明確な主語の多用である可能性が高い。しかし、同じ主語の繰り返した使用は日本語においては好まれない。現場において日本語でアナウンスをする際は「ここ」などを使って言い換えるよう指示する必要がある。

また、ChatGPT の剽窃が留意点として挙げられているが、この回答について、Web 上にある剽窃チェッカー「Dupli checker」にかけたが、剽窃は確認されなかったこともここで報告しておく。

ChatGPT への指示は「説明」という言葉が妨げとなったようなので、他にも「説明してください」と書いた部分を「案内文を書いてください」という言葉に書き換え、回答を得た。すると、上記に比べて少し短く、項目ごとに分けて文を提供したり、「重要なお案内」として注意事項が足された文が産出された。しかし、回答 1 であげられた、案内の受け手がワット・ポーにいない設定のように書かれていることや、カタカナ表記、主語の連呼は解決されず、大部分は回答 1 と同じであったので、本稿で回答原文提示は割愛する。このような ChatGPT へのさまざまな指示の出し方を学生と試みることも授業内で行われるべきであろう。

次に、ChatGPT をブレインストーミングの材料として使う目的で、旅行のスケジュールを考えさせた。具体的な指示は「今度バンコクに 20 代の友達が来ます。王道のスポットを中心に 2 泊 3 日のスケジュールを考えてください。」というものを入力した。回答は以下のとおりだ。

回答 2

(以下文 ChatGPT の回答ママ、スペースの関係上、行間をなくし、段落を作成している。)バンコクの王道のスポットを中心に、20 代の友達が楽しめる 2 泊 3 日のスケジュールを提案します。有名な観光地を巡りながら、バンコクの魅力を存分に楽しんでください。

Day 1:

午前: グランドパレスとエメラルドブッダ寺院: バンコクの代表的な観光スポットで、タイの歴史と文化を感じられます。

昼: スワンナプーム市場: 地元の屋台料理やお土産品が揃う市場で、美味しいタイ料理を楽しんでください。

午後: ワット・ポー: リクライニングブッダ像で有名な寺院です。側面から撮影するとインパクトがあります。

夕方: アソーク地区でショッピング: ターミナル 21 やエンポリアムなど、モダンなショッピングモールがあります。

夜: ナイトマーケット(アソーク通りなど): 夜の活気あるマーケットでお土産探しや屋台料理を楽しんでください。



Day 2:

午前:ダモエンサドゥアック・フローティングマーケット: バンコク郊外にある有名な水上マーケットで、ボートに乗って観光しましょう。

昼:チャオプラヤ川沿いでランチ: 川沿いのレストランでタイ料理を楽しんでください。

午後:ワット・アルン(暁の寺院): 美しいレリーフと特徴的なプラーン・プラーン塔を見学しましょう。

夕方:アソーク地区でリラックス: 屋上のバーで夕日を眺めたり、スパでリフレッシュしたりしてくつろぎましょう。

夜:バンコクのスカイバーで夜景を楽しむ: レイトンスカイバーなど有名なスカイバーで夜景を堪能しましょう。

Day 3:

午前:チャトチャック週末市場: 世界最大級の市場でお土産探しやショッピングを楽しんでください。

昼:チャトチャック公園でピクニック: 市場近くにある公園でリラックスしましょう。

午後:アイコンサイアム: モダンなショッピングモールで、最終日のお土産購入に最適です。

夕方:アソーク地区で最後の夕食: お気に入りのタイ料理レストランで最後の夕食を楽しんでください。

このスケジュールでは、バンコクの主要な観光スポットを中心に、アクティビティや食事をお楽しみいただけるようになっています。もちろん、友人たちの好みやペースに合わせて柔軟にアレンジしてください。素晴らしいバンコク旅行をお楽しみください!

(ここまで ChatGPT)

産出されたスケジュールに挙げられた場所は、まず全てタイに観光存在する地であることが確認できた。一見スケジュールとして使えるものが出てきたように見える。しかし、実際にツアーとしてこの日程を使うとなると非常に非効率的なものである。

例えば、Day1の昼はスワンナプーム市場とされている。ここはフアタケー・オールドマーケットとしても知られており、多くの在泰の日本人もブログなどで良い観光地として紹介している。しかし、これはグランドパレスとエメラルドブッダ寺院、及びワット・ポーがある地域から車で40分の場所にある。ダモエンサドゥアック・フローティングマーケットについても同じ問題がある。バンコク中心から車で1時間45分の位置にあるのだ。

この他にも、Day3はチャトチャック週末市場が挙げられているが、名前のとおり週末に賑やかな場所であり、Days3が週末にあたっていなければ、あまり華がない場所である。この点も考えなければいけない。

以上から分かるとおり、ChatGPTはこちらの指示を元に、回答を日本語で生成することができるが、この回答には言語・内容面の問題点もまだ存在する。学生には問題点も理解した上でのChatGPTの使用を促し、且つ使用にあたって高次思考力を育成するには、以下のような学習活動の流れが考えられる。

表 4.ChatGPT を使った学習活動の授業の流れ

目標	ChatGPT を使って日本語で歴史のあるタイ観光名所の説明文を産出し、現地で実際に自分が観光客へアナウンスをする文に書き換えることができる
流れ	授業内活動 1 ChatGPT の導入と授業内使用 1. ChatGPT の紹介と使用の留意点の指導(メディア・情報リテラシーの育成) 2. 授業内で歴史のあるタイ観光名所の案内文を ChatGPT に産出させる。この際に指示文の違いによってさまざまな回答が生成できることを体験させる。
	授業外課題 1 回答の分析と書き換え 授業で産出された文を解読し、誤情報がないか確認させる。その上で、自分が実際にガイドとして現場で案内する際に使用する場合、どのような点を変えるかの判断と書き換えをさせ、提出させる。提出されたものには授業前に教師がコメントをして返す。 (HOTS 選択する、決断する、変える、作る)
	授業内活動 2 ChatGPT を使用して起きた問題点の共有と案内文の改善 学生に、ChatGPT が産出したものから、どこを選択・変更して自分の文を作成したか、学生同士で共有し、コメントさせる。また、他の学生や教師からのコメントを元に、更に案内文を改善する。(対人スキルの育成、HOTS 説明する、推奨する、作り上げる)
	授業外課題 2 クラス内での案内文の共有と評価 各学生が作成した案内を Google classroom で共有し、作成された案内を評価する。 (HOTS 評価する)

以上の授業案を高等教育機関での日本語の授業で知的スキル、対人スキル、そして情報・メディアリテラシーを育成する授業として提案したい。

現在すでに教科書として ChatGPT が生成できるよりも高品質な観光地の案内文や解説文が存在している (Thadaeng and Pimphutong, 2000、チュラロンコーン大学育成センター, 1994)。しかし、だからこそ、ChatGPT で生成される文、自分が現在の日本語能力で改案し作成できる案内文と、有識者が書いた高品質な案内文・解説文との差異を自分で体験し気づかせることができる。これを行うことで、授業終了後もガイドの教科書などに案内文が提示されていない場所や場面で応用できることを期待したい。

11. おわりに

学生へのアンケート結果から、多くにとって難しすぎる授業内容ではなかったものの、教材中のふりがな、漢字の扱い方と指示の明示が教材内に必要であり、オンライン学習者へのフォローアップも必要であることがわかった。

また、観光の日本語及びガイドの日本語についての先行研究の分析から、筆者が授業で扱った内容は、概ねガイドとして役にたつもので、間違っていないが、方言や日本の時代についても指導する必要性が確認された。

さらに、OBE の視点から振り返ることで、学生の知的スキル・対人スキルとメディア・情報リテラシーについて授業で育成できる活動を行なえていないことが分かった。その上で ChatGPT を使用した言語・知識能力以外の能力を育成するための学習活動を提案した。そして、ChatGPT を観光の日本語の授業で使うことを想定した回答の分析か



ら、回答には言語面と内容面について、適切性の問題点がまだあることが分かった。これらの問題点、長所と短所を含め、できる限り学生と共有し、ChatGPT との適切な使用を促す活動が必要だと考える。現段階では、授業案であるので、今後はこの学習活動を実際に行い、活動後の学生の反応などを参考に有用な活動となり得るのか、探っていきたい。

注

この論文において、筆者は一部 OpenAI 社によって開発された言語モデルである ChatGPT (GPT-3.5; <http://openai.com>)を使用している。AI の使用箇所については論文内に明示し、編集は筆者が行った。

参考文献

- 奥野由紀子, 小林明子, 佐藤礼子, 元田静, & 渡部倫子. (2018). 日本語教師のための CLIL (内容言語統合型学習)入門 (CLIL 日本語教育). 凡人社.
- 金子広幸. (2014). 初級が終わったら始めよう新にほんご敬語トレーニング. アスク出版.
- 外務省. (2023, March 3). タイ王国基礎データ. Retrieved July 31, 2023, from <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/thailand/data.html>
- ゴンザレス ロドリゲス マリア テレサ. (2013). キューバ人日本語ガイドのための「観光日本語」 —ハバナ大学外国語学部用シラバスの提案—. 創価大学大学院紀要, (35), 265-283. https://www.soka.ac.jp/files/ja/20170429_001507.pdf
- タイ国政府観光庁. (n.d.). タイ観光案内サイト. <https://www.thailandtravel.or.jp>
- 千葉真人, & 高知知仁. (2010). バンコクに拠点をおく日本語ガイドに求められるもの—ベテランガイドへのインタビューに基づいて. 国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要, (7), 51-60. https://drive.google.com/file/d/1kBKvyUxV0SQW29xkE9RJYtWiW0HYpZ_T/view
- チュラロンコーン大学育成センター (1994). タイ文化の魅力 歴史・美術・建築・他 観光ガイドの手引き. チュラロンコーン大学育成センター
- 長町聡子, 中村照, 松原昭, & 山川紀子. (2006). 「ラチャパットの観光学科のための観光日本語用シラバス」 作成について. 国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要, (3), 97-106. <https://drive.google.com/file/d/1tnyziAHQsx6dFjY18h4LxlfSczL699Z5/view>
- 森康眞 (2008). コース用教科書「JPN336: 観光サービスのための日本語」の作成過程を振り返って—教材の作成前・作成作業・作成後—. 国際交流基金バンコク日本文化センター日本語教育紀要, (5), 97-106. <https://drive.google.com/file/d/12TgU9yxdHD2FUJiVY2M8OJs71eOvOjfk/view>

文部科学省 (2023, July 13). 大学・高専における生成 AI の教学面の取扱いについて(周知).

Retrieved July 31, 2023, from https://www.mext.go.jp/content/20230714-mxt_senmon01-000030762_1.pdf

JTB パブリッシング (2020). るるぶ・タイ バンコク・アユタヤ²¹JTB パブリッシング

Thadaeng, Piyajid, Pimphutong, Muntha (2000) ภาษาญี่ปุ่นชุดที่ยาวเมืองไทย. โครงการตำราอักษรศาสตร์
จุฬาลงกรณ์มหาวิทยาลัย

Sichakrawan, K., Abe, T., Jungsujaritam, B., Wachiradilog, W., Nakashima, K., Takada, H., &
Yoshida, T. (1995). *ガイドの日本語 2. 泰日経済技術振興協会附属語学学校.*

Sichakrawan, K., Abe, T., Jungsujaritam, B., Wachiradilog, W., Nakashima, K., Takada, H., &
Yoshida, T. (1997). *ガイドの日本語 1. 泰日経済技術振興協会附属語学学校.*

Bently, K. (2010). The TKT course: CLIL module. Cambridge, UK : Cambridge University Press.

Biswas, S. (2023). Role of Chat GPT in Education (SSRN Scholarly Paper 4369981).
<https://papers.ssrn.com/abstract=4369981>

Cotton, D. R. E., Cotton, P. A., & Shipway, J. R. (2023). Chatting and cheating: Ensuring academic
integrity in the era of ChatGPT. *Innovations in Education and Teaching International*, 1–
12. <https://doi.org/10.1080/14703297.2023.2190148>

Iwata,Y.(2009).Curriculum Design for the Tourism and Hospitality Japanese Course at the
University of Guam. *世界の日本語教育*,(19),125-139.

Najafali, D., Camacho, J. M., Reiche, E., Galbraith, L. G., Morrison, S. D., & Dorafshar, A. H. (2023).
Truth or Lies? The Pitfalls and Limitations of ChatGPT in Systematic Review Creation.
Aesthetic Surgery Journal, 43(8), NP654–NP655. <https://doi.org/10.1093/asj/sjad093>

Spady, W. G. (1994). Outcome-Based Education: Critical Issues and Answers. American
Association of School Administrators, 1801 North Moore Street, Arlington, VA 22209 Stock
No. <https://eric.ed.gov/?id=ED380910>

Yang, C.-C. (2023). Challenges and Future Directions for Classroom Instruction in a Post-COVID
Environment: Insights from Japanese Language Education in Taiwan. *The Korea Journal
Japanese Education*, 63, 7–21.